



# 第三回 醉狂会

工学院大学 野部研究室

平成壹拾七年 水無月開催

## ～ 酔狂会会則 ～

第一条 本会は酔狂会と称する

第二条 本会は連絡先を東京都新宿区西新宿 1 丁目 24 番地 2 号とする

第三条 本会は野部研究室出身者による相互の親睦・提携を図ることを目的とする

第四条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う

1. 総会 年に 1 回（修士 2 年が率先して行う）
2. 幹事会 年に 1 回（総会前とし、各年度から 1 名選出する）
3. 名簿 年に 1 回作成
4. その他 幹事会にて別途定めるものとする

第五条 本会の会員は次の通りとする。

1. 正会員 工学院大学建築学科野部研究室にて学士論文、修士・博士学位論文を取得した者。
2. 学生会員 工学院大学建築学科野部研究室に在籍中の者。

第六条 酔狂会の維持会費については次の通りとする。

1. 目的 酔狂会会員への連絡、通信及び名簿の作成の費用に用いる。  
回避納入者には名簿を配布する。
2. 会費 年間 2,000 円（総会時に徴収する）

あゆみのよ (第一話)

野坂龍彦(ペンネーム)

高層ビル窓からふと繁華街に目をやると思ひ出されるのが、あゆみのことだ。あゆみの店は二丁目通りの要小路と云う怪しい一画に看板を掲げる梅寿司の裏手から、狭く急な階段を体を斜めにしながら降りたところへひっそりとあった。今でも二丁目はサバルチャー華やかな虹色の町であるが、俺が初めて足を踏み入れた三十年前は海の底のようにとんよした日陰者が寄り添う場末であった。

大学に入り立ての若造であった俺は、一回りも年の離れた遊び人の友人の背後から狭い階段の壁に着古したセーターの肘を引っかけながら扉をくぐった。住宅のようには素気ない木の扉には、「あ」「ゆ」「み」と少しあいたをあけて記されていたことをよく覚えていた。微動だにしない凝んだ空気が充滿した暗い店内に目が慣れると、左にカウンター、奥に安手のデコリ張りのテーブル席があるのがわかった。その手の店だとはあらかじめ聞かされていたが、カウンターのの中には明るく顔立ちの青年と、イカグリ頭のずんべりしたオヤジが「ちちらを見や突っ立って」と、ほか「突っ立って」

おすおすとカウンターに腰を落ち着かせると注文も聞かずに水割りとお柿の種を出された。そういえば、この店は二丁目もお品書きがない。そのうち



友人は青年を「あゆみ」と呼び、イカグリ頭のほつはダンさんと白那さんの意か?」と呼ばれていることに気づいた。あゆみは端正な顔立ちに髪をきちんと分け、縦縞のシャツに白っぽい上着を颯爽と羽織っている。一方、ダンさんは派手なTシャツにビニラのレグウォーマーと云う珍妙な格好で、筋者のような強面に似合わない優しい話しぶりとなまよとした身のなすが、強烈な違和感を醸し出す。

店には顔が利くといつ友人の話はやはりホラだったらしく、その晩は互いに肩をすぼめて水割りを啜っただけで終わった。しかし、寝床に入ってからまあゆみとダンさんの気配が頭のなかを去来し、翌日の晩、大学の講義が終わると、何かに引き寄せられるように身体が仲通りへと向かい、恐る恐る暗闇の階段をひとり降りてみた。まるでパドラの箱を開けるように、「あ」「ゆ」「み」と少しあいたをあけて書かれた扉を細めに開いて覗いてみると、あゆみとダンさんは意外にも喜色満面の笑みを「ちちら」合げた。「この瞬間、俺は今まで知らなかった異境が眼前に存在するのを皮膚で感じずにはいらなかった。

この作品はフィクションで、店名や人名は架空のものです。第一話(続く)。

うーんやはり直木賞は無理か。

## 業務内容

緑川 光也

最近、自分の現場を持つようになりました。殆ど改修現場です。内容としては、事務所ビルのトイレ等の衛生改修、空調システムの更新、その他細かい修理です。『酔狂会』また機会がありましたら、お誘い願います

## 仕事を通じて

堀川 京子

現在、社会人2年目。川崎のプラント会社で働いています。

“プラント”といっても、どんな仕事をしているのか容易に思いつく人は少ないと思います。

私たち“プラント屋”の仕事は、加工食品・飲料水・医薬品などを皆さんの元に届く様、加工するための設備を造る仕事です。原料を細かくする機械、それを混ぜる釜、製品を殺菌する機械、これらを通して容器に詰める手前までの設備を造ります。

スーパーや薬局の棚に当たり前に並んでいる商品。多くの人が何気なく手にしていると思います。でも、これらの商品が具体的にどうやって作られているのか創造することは難しいと思います。

“プラント屋”として仕事を始めてから一番驚いたのは、いかに自分が身の回りにあるものに関心を持っていなかったかということです。自分が手にしている以上何らかの方法で誰かが作っているはずなのにどうやって作られているか考えもしていませんでした。

仕事の中で今まで知らなかった加工の工程を知るととても新鮮で全てが驚きです。見たこともない機械で次々に製品が作られている様子には圧倒されます。

楽しさの反面とても知力と体力が必要となる厳しい仕事ですが、大勢の人の手に届く商品を作る手助けをしていると思うととても誇らしい気がします。

まだ2年、これから一人前に現場を納められるようになることを考えるとまだまだ先が長いですが頑張っていこうと思います。

# OB・OG 編

西谷氏

緑川氏

堀川氏

小木曾氏

遠藤氏

井上氏

横山氏

日渡氏

## ヤマト魂

西谷 泰志

今も変わらず、なんとかかろうじて、ヤマトでがんばってます。今は埼玉県狭山市というところで紀文フードの豆乳工場の増改修工事現場でいっぱいになりながら奮闘しております。この現場はうち（設備）だけで50人位、全体で300人位の職人が入っていて結構大きな現場です。職人が多い分ホント大忙しで携帯電話がひっきりなしでかかってきて、電話を切るたんび切るたんびにかかってきて、1日100件は余裕で時には200件位電話していると思います。この間は、あまりの電話のウザさで投げつけてしまいました。この携帯の電話通話代は自分持ちってのがちょっと考えものです。最近、というより前から休みがとれず、月1ペースです。てことは、年明けてからまだ、5日しか休みが…。ゴールデンウィークなんてなんのそのです。このままだと年12日。かなり社会貢献していると思いませんか？ちなみに毎日、9時・10時まで、朝は6時起き。時にはお泊りも。もうプライベートの時間は帰ってきて寝るまでの1時間くらいしかないです。給料につく残業時間には上限があるので、ほぼボランティアですね。テレビも見る時間もないので、はっきりいって自分、時代遅れ人間になってます。さすがに、最近しんどくなってまいりました。

肉体的な疲れなんかはたかが知れてますが、精神的にちょいとまいってきてしまいました。毎日、軽量屋・ボード屋・建築・上司に怒られてたり、現場では毎日問題が勃発するし、終わった現場から水がもっただの、警報がでてるだの、排水が詰まっただの連絡が入るし、毎日悩みごとが発生して心配性の私には結構やられます。みんなで仲良く協力して建物をたてる、ってきれいな話ではなく、実際は現場によりけりでしょうけど、建築・設備・電気がいがみあいながら仕事してる感がありますね。まるで戦争をしているかのような。こう思うのは私だけなのでしょうか。同期はもう半分くらいに減ってしまいましたし、埼玉支店3人中2人辞めて自分ひとりぼっちになっちゃいました。なんか戦友を失った気がして送別会で、久しぶりに涙がでてきました。

今の仕事をしていると、いろいろとシンドいことが多いですが、考えればきりが無いほどやることのある仕事の分、ホントやりがいのある仕事ではあります。毎日起こる難題を一つ一つ消去するために、悩んで奮闘し、解決できたときの爽快感・充実感は何物にも変えがたいものがあります。こんな若僧が、おじさん達に「先生」・「監督」などと呼ばれたり、「これやっというて、あれやっというて」と指示をしたり、ペコペコされたり、ちょっといい気分になっちゃってます。何よりも、何も無かった場所に、床ができて、壁ができて、天井ができて、照明やエアコンがついて、家具が入って、お客さんが入ると、建物に命が入っていく様を、肌で感じる事ができるのが、非常に感動します。

長々と愚痴をこぼしてしまいましたが、短くまとめるといろいろ今は大変でシンドいですが、その分それが自分の成長の糧となっています。人より多く働いている分、人よりいろいろな経験ができて濃い人生を送れてます。昔なかった、「自信」というものも自分に

いた気がします。ヤマトに入ってホント後悔だけはしていません。先生のおかげです。今はなんだか自分は、仕事をするために生きているって感じがしますが、生きるために仕事をしたいという気持ちになったら、もしかしたら今の仕事は辞めるかもしれません。そのときはまた、連絡いたします。辞めた後に、後悔だけはしたくないので、やり残したことがないように今の仕事を楽しもうかと思えます。たまには、研究室の方に顔をだしたいのですが、なかなかその時間が作れず、残念です。

久しぶりに先生と美味しいお店でお酒をご一緒させてもらいたいものです。最近、季節の変わり目で変な天候が続いておりますが、どうぞお体には気をつけてお過ごしくださいませ。

野部研 OB 西谷 泰志





## 大学を卒業し專業社会人になって

日渡 邦明

お疲れ様です、みなさんお元気でしょうか？さて、私の近況の報告をします。私は今年度、今までの UD さんのアーバンネット麹町ビルから、電源開発本店ビルの方に異動になりました。まず、電源開発と言う会社の概要を説明しなければこのビルがどんな性格のビルというのがわからないと思いますので軽くご説明をします。電源開発と名前のとおりこの会社は電気を作り電力会社に電気を供給している会社です。原子力発電、水力発電、火力発電等で電気を日本中、世界中で作成しています。東電だけで電気を作っているわけではないんですね、ここへ来るまで私も知りませんでした。なぜこのような会社があるかと言うと電気の供給というものを国の政策で行っていたことによるためです。昔は通産省が直接指揮を執っていたのを民間に移行したのであまり知られていない会社が出来上がったのです。それで、私の仕事ですがこのビルのメンテを行っています。上記のような性格上このビルは24時間の不夜城ですので宿直もあり忙しい現場です。私はここに今度異動して行く主任の交代で来たので、このビルの設備を覚えるのはもちろんのこと引継ぎも受けなければならないので、個人的にもかなり忙しく毎日を送っています。

プライベートの近況としましては、大学がなくなったことで少しはゆとりが出来ると思っていたのですが、なぜか状況があまり変わっていないように感じるほど忙しく生きています。それでもプライベートを優先すべくなんとか休みを取って余暇を楽しんでおります。最近の活動としましては5月の中頃にあった神田祭に参加してきました。神田祭は浅草祭のような神社が主体のお祭りとは違い、お神輿を各町



内が出ず町内の祭りです。お神輿を担いで町を歩くと他の町内のお神輿が見えればよりいっそう声を張り上げ、お神輿をゆらし他の町内に負けないようにアピールし合います。神田という土地は電気街（最近はおタクの町？）とのイメージが強く人があまり住んでいないと思っていましたがはっぴを着て祭りに参加すると町の様子が一変して人の営みを感じ、ここは下町なんだなと感ずることが出来、充実した休日となりました。

と、こんな感じに仕事もプライベートも忙しく楽しく生きています。これからの予定としましては、夏休みをいかにして確保するかを考えながら仕事を割り振っていき、今年こそは台風のこない海を堪能しようとすでに伊豆の宿の予約を取ったりしています。（仕事はホントに大丈夫か？）

以上、簡単ですが近況報告とします。@ひわ

<おぎその近況報告>

小木曾 芳美

最近は毎日夜遅くまで働いていて、眠い毎日です。  
社会人になって、コンタクトからメガネになりました。  
ライブに行く回数も月に一回ぐらいになり、悲しい日々です。。

相変わらず工務店の営業と設計をやっています。  
今年の春に、初めて出会いから設計にちょっと携わったお家が完成しました。  
自分が紙の上で描いていたものが、実際に建って、  
そこに住んでくれる人がいるのは、とっても幸せなことだなぁ、と思いました。  
もうしばらく、今の仕事を続けるかも？



# 遠藤高史

現在 株式会社 平成建設 工務部 1年目  
(まだ学生気分です)

- 0歳 静岡県清水三保で生まれる
- 2歳 長崎県に引越し。(父が自衛隊員のため引越し多し)
- 4歳 京都府に引越し。
- 6歳 広島県に引越し。
- 8歳 神奈川県は川崎市に引越し。野球少年になる。
- 10歳 神奈川県は横須賀市に引越し。
- 12歳 中学入学。野球に熱中する。
- 15歳 高校入学。高校球児になる。
- 18歳 大学入学。建築学を専攻する。
- 21歳 留年する。自転車で日本縦断する。
- 22歳 旅人になる。(東南アジア、インド、ネパール周遊)
- 23歳 大学卒業



## 高校球児

ストリートとカーブで打たせてとる軟投派。コントロールの良さが身上!  
コントロールが良すぎて、試合ではたくさん打たれましたけど。



## 大学

建築学専攻。研究室ではすばらしい指導者。同期(先輩と出会う。夏合宿。反省会や  
討論と称した飲み会が。留年して一年多く学生した甲斐がある!



## 留年そして

留年決定からわずか一週間後、留年のショックで日本縦断を決行する。自転車で、  
野宿をし民家や交番にも泊めてもらい日本中の人の世話になり、人間の温かさに涙。  
日本バンザイ!! 留年バンザイ!!



## 旅人

東南アジア(タイ、ラオス、ベトナム、カンボ  
ジア)を周遊。アルコールが体に感動が  
旅と世界に興味を抱く。ただし英語力は未  
だに小学生レベル。



## その他

地元横須賀の遊び仲間。アホ  
でマスケな親友たちです。



酒は楽しく飲みます。



食はめっちゃ食べます!!



## 中学教師

井上 千里

皆さまお久しぶりです。就職が決まらず皆さまにご心配お掛けしましたが、なんとか五月一日から教員として採用されました。東京都の中学に配属され、慌ただしい毎日を過ごしています。今 2 年生の副担任をしています。授業や生徒指導など慣れないことばかりでいっぱいいっぱいの日々です。特に最近は「気力で生徒に負けてはいかん」ということと「怒るのは非常に疲れる」ことを強く感じます。自分に向けた職業が疑問に感じることもしばしばですが、やれるところまでやってみようと思います。

話は変わりますが先日体育祭があり、連日の準備の疲れを引きずったままりレーに参加しました。自分の体力がこんなに落ちているとは...とショックでしたが、生徒に負ける訳にはいけないので、これからなんとかして体力をつけようと思っています。

皆さまいかがお過ごしですか？いつかまた会いましょう！ 椅子の班の人へ、成功することを祈ってます！

## 社会人になって

横山 友紀

### ・技術研修の 1 日（門前仲町の心霊ビル）

6 時起床 通勤 8 時 45 分入社 大学で使ったテキストで基礎知識叩き込む たまに記憶ない 昼食 午前中と同じ 5 時半研修終了 飲み 酔っ払った同期にギロチンチョークされ落ちかける 帰宅

### ・現場研修の 1 日（再開発新築現場）

5 時半起床 通勤 8 時朝礼 安全帯・ヘルメ・安全靴・作業服着て金魚のう こ如く先輩について現場で埃かぶる 昼食 昼寝 図面手伝う 現場徘徊 17 時半まわりの空気は読まずに帰る 帰宅

### ・現場研修の 1 日（新築オフィスビル現場）

6 時起床 通勤 8 時 45 分入社 屋上高架水槽の吊り上げ・設置見学 昼食 昼寝 上司に「図面見てて」と言われたまま数時間放置 現場にて鉄筋の上でよろけてこける 入社 3 年目の工学院卒 Y 先輩が職人から責められ、上司に 15 分間本気で怒られ続けているのを目の前で見て凹み、帰るタイミングを逃す 6 時半隙を見て帰る 帰宅

## 徒然なる近況報告

古川 悠

これを書いている時点で五月は終わりを告げ、六月の長雨の季節の突入したことで筆者は六月病（または一ヶ月遅れの五月病）に苛まれる結果と相成った。学部を卒業して修士課程という未知の領域へ踏み出した今年ではあったが最近はようやくそのペースに慣れつつあるようで一週間があまりに短く感じてしまう。気づけば六月も初旬は終わり。ついこの間まで四月の締め切りに慌てていたではないか。あれ？五月の記憶があまりない。などという面白現象が多発。軽い記憶喪失的状况をギリギリまだ楽しめているようで実は冷や汗ものだったり。あ、来週も提出するものあったよなあ...一日が36時間くらいになってくれればいいなあ、などと妄想しつつ時間は容赦なく過ぎ去っていつもの繰り返し。一行目に戻る。

さて、この文章は近況報告と題しているので近況報告について述べなければならないかと問えばそれは必ずしも是ではないと筆者は考えているのであり、いつの時代も常識や固定観念に囚われることなく自由な発想と創造力が先端を切り拓いて来た事実を思い返すとき、自ずから明らかになるわけであったりなかつたりすることはとりあえず横において置くとして、しかしそれにしても命題を大きく逸脱した文章を書くことを筆者の良心が黙認するわけにもゆかず最低限の内容は書こうと思う所存であります。そんなわけで何が言いたいのかわからない文章になりつつあるわけですが要するに「最近の調子はどうですか」という最もわかりやすい内容に落ち着かざるを得ません。どうですか、最近の調子は？



「このペースがあと6ヶ月続いた場合、世界はかつていない恐慌に陥るかもしれない」

（イター通信 2005.6.9）

というわけで最近巷で話題のクールビズ、どう思いますか？暑けりゃ着る物調節すりゃいいというのは単純明快ですね。自然界にいる動物とかって夏毛・冬毛で生え変わったりするじゃないですか。一年中大量に着込むのはやはり不自然ですよ。動物を見習うべきだと思います。そんな想いを込めつつ天然クールビズ対応と思われる人気のレッサーパンダを載せときます。

（左写真参照）

# 修士編

~ 修士三年 ~

清水氏

松島氏

~ 修士二年 ~

古川氏

新川氏

矢沢氏

吉沢氏

## 肉体の衰え…

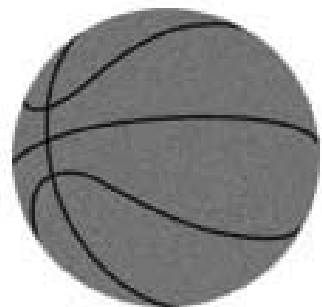
清水 賢

昨年の学生であれば幾人かの方は知っていると思いますが、リフティング中に捻挫しました。遠藤高史氏にその現場を目撃され「ちょっと宙に浮いてたよ」のコメントからすると私も倒れまいとがんばっていた様です。私の足首はスラムダンクのゴリのように腫れ上がり、まともに歩けずしばらくそこで蹲っていました。生涯で最大の怪我となったのではないかと思います。その際には遠藤氏と長南氏に多大な迷惑をお掛けしましたことをこの場を借りて詫びたいと思います。あのときの氷の冷たさは今でも忘れません、そして二人の「何やってるんだろうこの人」って顔も忘れません（冗談）。その時に私は肉体強化をしなければと強く思ったのです、男としてこれではいかんと。

そんな事故から幾月も過ぎ、決意なんて何のその、肉体強化をしていない私はポーリングをやると腕が痛くなり、バッティングセンターに行くと体が痛くなり、ビリヤードを長時間すると足にきます。ショックだったことは一ヶ月ほど前の出来事ですが、友人とお酒を飲んだ帰りにダーツを1時間半楽しみ帰宅して翌日起きたとき、右手に違和感があったことです。ああ…ダーツで筋肉痛になるのね…。むしろ新しい発見をした感覚でもありました。野郎と二人だったので休みがなかったといえは無かったですが、そんなこと言い訳にもならないですよ、ははは。

しかし、体型が変わるとか目に見えて太っているなどという現象は現れず、ややおなかの気になっている程度で至って高校卒業から変化なしです、表面的にはですが…。おそらく体脂肪率が増加していることは間違いないはずですが。たまに行う運動では俊敏さは気にならないですが、やはり持久力の低下が問題となっています。現在の研究で八王子の坂道を上り下りすることがよくあるのですが、いやはやたまらんですなあ（特に登り）。口で呼吸している自分が情けないです。どうにかあの登り坂を平らにできないものでしょうか。

そんなこんなで最近では運動したいと願っています。やはりスポーツは楽しいです。中学のバスケットも高校のバレーも懐かしくボールを見るとつついさわって、シュートを打ちたくなる今日この頃の私でした。



# 最近のお仕事

松島 孝幸

研究室に所属してから早2年余…時が経つのは早いものであと9ヶ月で修士課程を修了する。ようやく就職も決まり、『あとは学会と修論だ〜』と思いつつもあまりやる気が出ない…。

これはいわゆる5月病なのか（6月に?!）、それとも研究室に長い時間いるために余裕が出てきた証拠なのか…。なんてこと考えている暇な日々が続いている今日この頃。

最近の仕事といえば、これといって特にない。卒論性の指導はまだまだ余裕のある時期なので控えめに。といつつ実際はS川さんとY沢くんにほぼ丸投げ状態で好きにやってもらっている。まあ、就職も決まった事だし、これからは本腰を入れて指導をしていかなければ…去年のY山さんの二の舞となってしまう。個人的な仕事といえば、N先生からK学院附属高校の弓道場のパースを書いてくれとの要望があったため、はじめにAutoCADで作ってみた。AutoCADなんて学部の授業で数回いじっただけで殆どやったこともないし、やった記憶すらない…。しかも自分の持っているAutoCADはもちろんイケないソフトだったため英語バージョンで何が書いてあるのかすらわからなかった。そのためフィーリングで何とか頑張ってみようと思い作ってみた。はじめは絶対に無理だろ〜なんて思っていたが、パソコンのソフトなんてフィーリング力で何とか使えるものである。一応出来た!しかしショボイ!!これなら手書きのほうがましだ!!!な〜んて思ったため、次はFormZにて挑戦してみた。FormZは日本語版をもっていたため、AutoCADに比べたら数段わかりやすい。日本語ってすばらしい。建物自体はCADデータをそのまま移行してきたのでそれほど苦労はなかった。しかし、問題は添景にあった。特に木はそのまま移行するとデータがかなり重くなった。でもきれいだった。だからそのままにしてみた。あとは人を入れ、背景を作り…と文章にするのは簡単だが、ここの部分が一番時間がかかった。なぜなら、反射だ、影だと理由のわからないものが多く出たからだ。しかも弓道をやっている人の絵なんてあるわけがない!しょうがないから作っていたら意外に時間がかかってしまった。そしてダラダラ作り始めて約2週間で完成した。今回は暇だったからやってみたが、次はもうちょっと考えてからやろうと実感した今日この頃。



AutoCADによるパース



FormZによるパース





# My Report

Written by Takamasa Shinkawa

## Back to 2004 ...

昨年度前半、就職か大学院かという進路について今までの人生において究極の選択を行い、大学院進学という選択（色々問題がありました）を行ったわけであるが、この選択が自分の今後にどのように影響してくるのかは今全くもって解らない。

昨年度の研究については建物のエネルギー消費量を調べるという一見単純な内容に思えるが、企業委託研究というこの6文字に、ほぼ1年間に渡り苦しめられ続けた。ここだけの話だが真剣に逃亡を計画した時期もあった気がする。

こんな流れで学部4年間が終わり、新しい2年間が始まった。

## MY 2005 Episode ~ 研究室編 ~

大学院生活が始まり早速、建築学会・空気調和衛生工学会の学会論文を書くことになった。また、昨年度中に申し込んだ講演会の発表会など、特盛状態であった。

今年度からは卒論生の指導を行いながらの研究ということは承知のことであったが、人に教える立場などとしたことの無い自分の心境は複雑かつ大部分を不安が占めていた。ちなみに担当する本年度の研究は、「自然エネルギー班」と「環境エネルギー評価班」の2つである。具体的には建物に関するエネルギー調査と環境選択性を持った建具・家具の開発という内容だ。

環境エネルギー評価班については調査物件の決定が遅れてしまい中々スタートを切れなかったが、本レポートが配られる頃には秋田県の田沢湖町での短期実測が終了し、良かれ悪かれ東京に帰ってきているだろう。突然の実測決定に驚き、戸惑いつつもM2の松島さんと共に現在はその実測に向けて準備を行っている。

自然エネルギー班としては建具の開発ということで、実際の伝統建築物を見学するため卒論生と共に見学会に出向いている。この研究もなかなか手強く、同M1の吉澤君と卒論生への指導方法や独自の建具の開発案をほぼ毎日のようにディスカッションを行い、悩んでいる所である。昨年は途中挫折してしまった研究なので今年度は何とか形にしたいと思っている。

まだ研究も始まったばかりでどちらの研究も具体的な姿をお見せすることはできないが、年末にはしっかりとした結果が出ていることを期待したい。

## MY 2005 Episode ~ プライベート編 ~

周囲の友人の大半は就職という進路を選んでしまったため、誰かと出掛けるといったことが大幅に減少してしまった。特に土曜、日曜に集中してアルバイトを入れているため尚更だ。

定例で月に1回ちょっと頭のおかしい友人達と深夜時間帯(25時以降)に遠方のドンキ・ホーテに通うという会合(サークル化の検討がなされている)が今のマイブームとなっている。何か目的を持って行くというわけでもなく、ただグダグダと出掛けるという不良中学生の深夜徘徊みたいな行動を行っている。

また、今年度のこの3ヶ月を振り返って見ると酒の摂取量が著しく減っていることに気づいた。月に1、2回飲み屋に向くぐらいだ。家ではたまに350mlの缶ビール(今はギネスドラフトビールにはまっている)を1本飲む程度だ。肝臓やお財布的には省エネルギー効果を発揮していると思われるが、もう少し回数を増やしたい感じである。若干ではあるが全盛期より酒に対して弱くなっているような気がしてしかなない。

趣味の1つである映画鑑賞も最近はめっきり回数が減り、たまに調子に乗って複数本借りるまでにはいいが、鑑賞時間を深夜帯と硬く決めているため眠くて全部見切れないことが多く、見ずに返却したりと無意味なことをしている。とりあえず今は「ミリオンダラー・ベイビー」と「スターウォーズEpisode」が最も見たい作品の1つであることをご報告しておこう。

## 近況報告

矢沢 敦

大学院生になってすぐキックオフミーティングで那須の山奥の旅館へ行くことになった。この旅館は溪谷にひっそりと佇む風情のある建物で、携帯電話の電波すら入らない場所にあった。日常生活から離れた非日常の空間といった感じであった。旅館に着いて早々大露天風呂（初期の温泉プール？藻付き）に入った。裸で寒い外を歩き、湯に浸かった瞬間は非常に快感だった。プレゼントネスを体感した。その後は、各自持ち寄って酒を飲み、普段は語れないようなことを語り合った。この旅行で新しく入ってきた吉澤君とも仲良くなれ、これから‘院生として頑張ろう’という気持ちになれた。いつかまた機会があったら訪れたいと思う。



北温泉旅館

旅行から帰ってくると、建築学会の論文を作成しなくてはならなかった。卒論提出時にも梗概を作成していたので、どのように書けばよいのかは分かっていたものの、なかなか論文用の日本語が出てこなかった。毎日日本語を使っているにも関わらず、日本語を書くのがこれほど大変なことか実感させられた。それでも、何とか書き上げM先輩、N先生に読んで頂いたのだが、多くの部分を修正された。もちろんショックだったが、多くの方から‘ダメ出し’を受けることによって少しずつ成長していきたいと感じた。

それから、卒論生の研究テーマが決定した。僕が担当する‘エミュレータ’を研究するのは、佐久間君と青砥君になった。早速二人には昨年の論文を読んでもらい、研究内容を理解してもらった。最初は、何の研究なのか全く解らなかつたみたいだったが、色々話し合っていくうちに理解してくれたみたいだった。卒業研究は長丁場なので楽しいことばかりではなく、時には嫌になって海外逃亡したくなったり(しちゃったり??)することもあると思うけど、二人としっかりコミュニケーションをとりながら頑張っていこうと思う。



エミュレータ

昨日(6月9日)のことであるが、他大の学生と交流するスチューデントフォーラムに参加した。今まで他大の学生と交流する機会がなかったので、上手くコミュニケーションがとれるのか不安であったが、その不安は‘交流会’と称された飲み会で払拭された。アルコールが入った途端に、隣に座っていた他大の人との話が盛り上がり、気づくと知り合ったばかりとは思えないほど打ち解けて仲良くなっていた。また、席を移り名刺を交換しながら多くの人と交流することができた。やはり研究室によってそれぞれ特色があった。ちょっと飲まされ過ぎたが、色々な研究室の人と話せてとても有意義な時間を過ごすことができた。また、参加したいと思う。(しかしながら、ノミニケーションの力はすごいと実感した。)

# 酔狂会資料

吉澤 茂之

<環境選択班>

M1 吉澤、M1 新川、B4 片山、B4 佐々木、B4 吉川

私どもは、環境選択性のある建具というものを目指して研究、開発をしています。室内環境に及ぼす環境要素は、温度、湿度、雨、風速、虫、粉塵、日射等いろいろありますが、それらを快適に緩和できるような建具であり、かつ自分で調節できるという選択性を持たせた建具を目指しています。

しかし、すべての影響を満たす建具を開発するのは難しいことです。よって、室内条件の要素を限定して建具のアイデアを考える方向で開発しています。

建具のアイデアとして日本の古民家に設置された建具が参考になると考え、現段階では見学会を多く行っています。今までに、小金井公園の江戸東京建物園(図 1、図 2)、川崎の日本古民家園(図 3、図 4)などを見学し、今後も建築リフォーム&リニューアル展などに行く予定です。

今はまだ各々の考えた案をみんなで討論する、といった段階ですが、今後は具体案をしっかりと定めそれに向けて開発、実験などを行っていきたいと思っています。



図 1 . 蔀戸



図 2 . 大阪格子

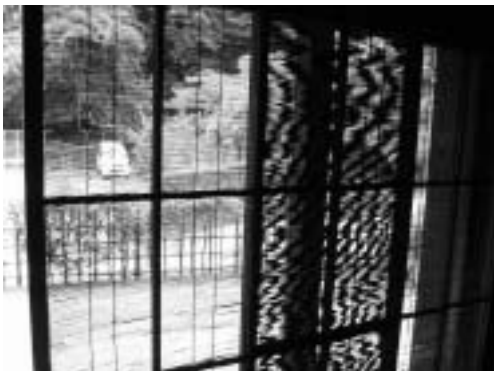


図 3 . 竹でできた網戸



図 4 . 古民家の室内の様子

## 日記を載せているひとなんて…

恩賀 彩子

本年度卒論生の恩賀彩子です。

卒論は空調イスに取り組んでいます。現在3世代目の案を考え、2世代目を改良しているところです。すでに作られたものにより価値や性能、新しさを加えるのはかなり大変なことだと、始まって少しですが感じています。今年どんな方向に進むのか楽しみです。

私はセミナー生から野部研究室に入ることができました。もっと競争率が高いのではいかとビクビクしており、面接の際には、先生からの質問シートに興味を持っていただけるように必死に書いたのを覚えています。もう3年生のセミナーの配属もはじまっているので一年は早いなあ、という感想です。先生、先輩方これからもよろしくお願いいたします。

最近（これを書いているときは2週間程度ですが）『サイト上で日記を書く』ということを始めました。公開できる範囲を制限できるのでブログとは少し違うように思いますが、自分以外の方が日記を読めることは同じです。すでに日記を書いていた友人に勧めてもらったのが始まりです。私はHPを作っていたり、日記を書いたりすることを個人でしているひとたちは“自分を大好きなナルシスト”だと思っていました。あきれていたといってもいいです。そんなこと私はしないだろうなって。しかし実際にやってみると面白いのです。その日思ったことを文章にすると新しい発見をしたような気分になります。いままで日記に挑戦したことは何度もありますが、どうしても三日坊主…。なんだか独りで書いて誰にも覗かれないようにしておくのが恥ずかしかったです。見つからないようにがんばって隠していましたから。

現在あきれていたひとたちと同様のことを始めて少し驚いています。私も“自分を大好きなナルシスト”なのか！？と。本当にそうなのかどうか、もう少し日記が続くか私自身も楽しみです。



# 学部編

青砥氏	伊藤氏	恩賀氏
片山氏	佐久間氏	佐々木氏
菅原氏	芳賀氏	松村氏
山内氏	吉川氏	四方田氏

## 目標は大きく

青砥 貴律

エミュレーター班の青砥です。

エミュレーターというものは建築物が外のからのエネルギーによりどのくらいの負荷がかかっているのか？を簡単に・リーズナブルに計測するためのアイテム、つまり空調負荷という物を容易に計測するためのアイテムです。

五月は昨年行われた研究内容と公式の把握・確認および今年の方針について深く語り合い、六月はそれを「模型」という形にする作業に取り掛かっています。熱的に建物と相似なものを作るために計算方法・模型素材・倍率・単位などを考慮しながら考える事が必要不可欠で、「この方法で実現できるかどうか？」「駄目やねん」の繰り返しです。しかし確実に一歩ずつ、前に進んでいると私は体で感じています。

それよりも私の問題はもうひとつの卒業単位にあります。こっちの単位はもはや一歩ずつの前進ではある意味で死をあらわします。

この二つの大きな壁を前に四年生前期は、私自身の大きなヤマ場と言えますが。

私、青砥貴律は素敵な卒業研究になるよう気合入れてくんで、野部先生。矢沢さん。佐久間君。そして野部研のみなさん。どうぞよろしくお願いします。



21 歳夏の憂鬱

伊藤 友祐



卓球はまあまあ楽しいと思います。  
でも祭りのほうがもっと楽しいと思う。  
祭りよりも空調椅子を作るほうが楽しいとは言えません。  
CGでなんかつくるのも楽しいし、  
料理とかするのも楽しいと思います。

5行しか書いてませんが、よろしくお願ひします。  
あと、こういうアホな人も楽しいと思います。  
そんな今日このごろです。





## 梅雨ですね。

菅原 一浩

6月10日に梅雨入りした。

じめじめむしむしするなんとも耐え難い日々が続くことだろう。

そんな雨が続く日々の中、私は、読書に嵌っている。

きっかけはよくわからないが、友人の勧めとでも言うのだろうか。

・・・いや、通学時間中暇だからだ！

今までは、寝ていたり、または寝ていたり・・・、もしくは寝ていたり・・・、だったので、1時間15分の通学時間を満足できる時間にしたいと思ったからだった。

だからといって、何をしようかと迷っているときに、そこで友人の勧めがあった。

早速、本屋に行き、久々に文庫コーナーで物色を始めたが、なんせ読書に不慣れなので、とても悩んだ。

・・・と言いたいところだが、すぐに決ったのだ。

高校生のときに少し興味のあった、「東野圭吾」という推理作家の小説にした。

最近はよく売れているらしい。

名前は前から知っていたし、推理小説なら読みやすいだろう。

読む時間は、暇な通学時間だけと決めて読み始め、1冊約400ページを3日で読み終わったのだ。

私は読む早さに全く自身がないので、自分自身、正直驚いた。

・・・へえー。・・・やればできるんだ。

梅雨が明けると、いや、明けていなくても、私は今、ビーチバレーが気に掛かる。

私は、高校生のときバレーボール部に所属していた。

そして、私の実家は、海岸まで自転車で10分のところだ。

・・・そうだ、ビーチバレーしよう。

毎年この時期になると、思うことだが、友人との予定が合わなかったので、ろくにすることができなかった。

去年は寂しいことに、観戦だけで終わった。

しかし今年は、お互い、就職活動を終え、卒論はまあ順調だし、やる気を起こすためついに、マイボールを買ったので、漸く活動開始となるだろう。

やるからには大会にも参加したいので、7月24日と8月6日の大会に参加出来るよう特訓するつもりだ。

男子バレーボール=気持ち悪い

・・・ビーチバレーなら気持ち悪くないでしょ！？

と声を荒げて訴えたい。

はじめまして

片山 裕介

私は昨年から野部研究室のセミナー生として所属していたので、先輩方の中にはお会いしたことのある方が何人かいると思いますが、ほとんどの方が初めてお会いすることなので、この第二回酔狂会をととても楽しみにしています。この機会に是非、野部研究室での思い出話や、卒論のこと、社会に出てからのことなど、お聞きしたいと思っていますので話しかけてください。

さて、私の近況報告なのですが、先日、苦勞した就職活動も無事に終わり、ほっと一息のところなのですが、それと同時に卒業研究が少しずつ始まりました。私は、環境選択班として「伝統建築物に適用可能な高機能建具の開発」に取り組んでいます。すでに数回、古民家の見学にも行き、最近は何かいいアイデアはないかと色々考えています。私がこの研究テーマを選んだ理由としては、人間の最も近くにある建築物である住宅、その建具を通して人間の生活について新しい考え方や、新しい価値観を提案していくことができるのではないかと、考えたからです。そしてこれに取り組んでいくことで、地球の環境問題を解決していくことのヒントになるのではないかと考えています。そのため今は、この研究テーマに対してとても大きな可能性を感じながら日々取り組んでいます。とはいえ、この研究は昨年も取り組まれましたが、完成を見ずに中断してしまった難しいテーマでもあります。そのため気を引き締めて取り組み、今年こそはある程度形となるようにしたいです。

また、学生生活最後の年ということで、充実した日々を送っていきたいと思います。



6月10日(金) 天気 雨☔

佐久間 靖行

現在「アジア建築」の講義中。 ねむい…。

昨日、設計課題の中間提出でほとんど寝ずに仕上げていた。つかれていたのですぐに眠れると思っていたのになかなか寝付けず朝になってしまった。

起きている間なんとなく自分で髪の毛を切ってみた。だいじょぶだろうか…。

いろいろあったが、なんだかんだで現在に至る。

今日は忙しい。授業に歯医者、卒論、バイト。

文才がないので近況について書こうと思う。

まずは卒論。テーマは「空調負荷のリアルタイムエミュレータの開発」。

今は昨年の研究の理解を深め、今年の方角性を議論中。前回3人(矢沢さん、青砥くん、自分)で話しあったとき、やっとスタートラインに立てた気がした。ゴールできるかわからないがやりがいはある。いい結果がでるといいなあ

次に就活。けっこう早くから動いていたが上手くいかず、どうしようか考え始めたころ決めることができた。卒論の続きをやってみたかったので院を考えていた。そのときはまた両親に迷惑をかけることになる…。が、とりあえずは良しとしたい。

次は部活について。今年は4年目、まだ部活をやっている。同期がいないので結果的に主将をやるはめに…。部員不足のため4月に行われた大会に出ることができなかった。そのため新入部員を鍛えて次の最後の大会に挑むしかない。今年はプレイヤー5人、マネージャー1人が新たに加わった。彼らにがんばってもらい、最後の大会でいい結果を残したい。

最後に現在の生活についてでも。最近(前からかな?)、部屋で一人でお酒を飲むようになった。飲むのはほぼビール。この前1ケース買い置きしたのもうなくなってしまった。ひかえようと思うがそうもいかず飲み続けている。お腹がでてきてるし生活を変えねば!

写真は最近お気に入りのビール「カールスバーグ」。  
ほかにも「ギネス」や「ハートランド」があります。



## 自給力

佐々木 晴彦

環境選択班は伝統建築物に適用可能な建具を開発しています。自然回帰しているようで、住環境の最適化を目指す今日の空調と対比するとき、ふと自分は何をしているのだろうか、虚無感に襲われることがあります。

先日、とあるラジオ番組でパーソナリティーが、携帯電話を解約して生活を始め、それによって“余裕”が生まれ、様々なことが出来るようになったという日常について話していました。携帯電話は連絡手段として時間と手間を大いに省いてくれます。また、時計が付き、音楽が聴けるようになり、何でもできるようになった気がします。しかし同時に、機械の進歩とともに人間は何もしなくなったのではないのでしょうか。何のために生きているのか？科学の進歩の行く末もやはり、虚無の世界が広がっているように感じられます。

人生の醍醐味とは何なのか？人類に必要なもの“衣・食・住”と言いますが、これをよく噛み締め、味わうことにあるように思います。

私の実家では、米もたいていの野菜も自給しています。そう言うと、やたらでかいスケールの田畑を想像する人ばかりいるものですが、実際は小学校で使っているような小規模な畑と田んぼがあるだけです。獲れるものは不恰好なものが多い。大体の成長過程を見ていれば分かるのですが、各々さまざまな困難に遭遇しているらしい。気になる味は……売っているものと大して変わりません。良し悪しよりは、とにかく感慨深く頂いております。一方、都内のスーパーに並ぶ野菜は素晴らしく均一で、見事なボリュームで出来ていると思います。立派な上に「誰それが作りました」と証明書みたいなもので付いている。食にステータスが付いてくる。味わうモノが違っているのではないか？そう思うことがあります。

必要が溢れ、逼迫している。いつからか、最適とされる形態を採らざるを得なくなった世の中は、変化に乏しく無感動。逸脱することに快感を覚えるという悲惨なケースもある。この研究から、“余裕”を創り出し、生活の素晴らしさを感じられる何かが出来上がるよう取り組みたい。



## 意気込み

吉川 佳江

何かを研究し、それが機能やデザインにつながって、新しいモノをつくり出すということにとっても魅力があると思い、この研究室を選びました。他に例のない、新しい視点からみた研究が多く、やりがいがあるのではないかと思います。

「環境制御機能を有する家具・建具の開発」が私の卒論のテーマです。環境選択班という6人のグループで自分の環境を自ら判断し、選択できるような家具・建具の研究・開発を行っています。建具は明治時代に入りガラスが導入されたことによって、その進化が止まってしまったといわれていますが、今回の開発はガラスが導入される以前の障子や格子窓、板戸やふすま等の建具に注目しています。最終的には、今日の都市の自然環境下でも開放的に窓を開け、快適に暮らすことができるような建具を実際につくるのが目的です。

現在は、建具開発のアイデアを求めて、文献等を調べたり、実際に古民家の見学を行い、建具が室内環境に対してどのような影響を与えているのか、どのような変化をもたらしているのかを実測しています。家具・建具等のそれぞれの特異性を見つけ出すために、今までとは違う視点で古民家を見てみると、新しい発見と昔の人の知恵と工夫に改めて驚かされました。そして、新しいモノをつくり出すということがどんなに難しいことなのか実感し、非常に苦悩しています。

野部研究室に入ってまだ3ヶ月ですがとても楽しく、興味深く研究を行っています。今後の進路としては、さらにこの研究を続けたいと思い、そして他の新しい分野の研究にも興味があるので大学院への進学を希望しています。



川崎市立 日本民家園にて

## R25 という情報ツール

芳賀 裕輔

「普段あまり本を読まないそのあなた、そのままでは仕事に行き詰まるのは目に見えているし、絶対に出世しないよ。ある程度年をとったら云々…」

緩やかな表現の中に、どこか鋭い指摘を感じさせるこの一文は R25 から抜粋してきたもの。一見おせっかいに思えるこのコメントに人知れず妙な危機感を感じてしまう。

そんな R25 との出会いは、街頭に陳列されたものを何となく手に取ったのがきっかけで、今でも見かけるとついつい手に取ってしまう。無料だし、分量も丁度よい。政治・経済 etc

小難しいことも要領良く、端的にまとめてあるところが魅力的。ただ最近は減りが早く、入手しづらくなって来ているのでちょっと残念…。

ここで R25 について、一応解説させていただきますと（ホームページ参照）R25 の「R」とは R 指定、という言葉にあるようにリストラクト (Restrict : 制限) という意味。つまり、R25 とは 18 禁ならぬ 25 禁の雑誌なのです。

この雑誌は世間では「元気がない」なんていわれて、ちょっと悔しい世代の男性のために向けて「オトコ視点」で編集されたもの。

では、R25 世代って実際どんな世代かと申しますと、今年、25 歳になる人が生まれたのは 1979 年。東京サミットが開催され、英国では先進国初の女性首相となるサッチャー首相が誕生した年です。この年にはインベーダーゲームが流行し、そして機動戦士ガンダムが放映されました。

成人してから早数年。一般的には社会や仕事先でも責任ある立場になりつつあり、社会人の生活にも大分慣れてきた一方で、仕事面で情報の理解やコミュニケーションに苦勞を感じることも多い時期（？）。そんな世代を応援するつもりで作られたものとも言えます。

R25 はフリーマガジンとしては中身がかなりしっかりしている。その特性ゆえ他情報誌よりも若干主観性というか、偏った見方を含んでいることは否めないが、あくまでもざっくりと理解するという意味では情報ツールとしてもなかなかの優れものかと…。

そんな R25 宣伝しまくりの自分も、ふと、気がつけば 25 歳も目前。

良くも悪くも自分の年齢を再確認させられる。

それでもついつい手が伸びてしまう、今日この頃。



## すこいやつ

松村 俊朗

大学に入る前あたりから集め始めたレコードが最近500枚を超え、床が抜けるんじゃないかと不安な今日この頃です。最近は就活のストレス解消から大量に買っていて、曲の内容だけでなく海外通販で家に届くドキドキ感も魅力の一つです。特に70年代のイギリス音楽が好きで、そんなわけでそこから一枚紹介。

### Screen Gemz/I Just Can't Stand Cars

79年に発売され、一枚のシングルを残して解散してしまったバンド。ナントこのバンドは現在 Underworld のメンバーであるカール・ハイドとリック・スミスが在籍していた。彼らが学生のとくに活動して、現在みたいなテクノではなく、POPな曲となっている。この頃からの作曲、アートワークの才能を発揮し、本当にすこいと思うバンド。



## 近況報告

山内 康平

どうも、学部4年・建築実測班の山内と申します。指定されたビルに赴いて調査・実測を行うのですが、まだ肝心の調査物件が決まっていないので今現在は過去の資料の読み合わせをしている段階です。そんななかで研究に関連して、さる5月26日に東京電機大学で開かれた空気調和・衛生工学会のシンポジウム“窓まわり・ペリメータ空間の環境および負荷～その実態と対策～”に出席し、ペリメータ空間についての実測の方法や消費エネルギーの低減などに関する最新の成果を吸収するとともに、各企業からの参加者が活発に質問をする様子に圧倒された次第であります。そんなこんなで卒論の本格的な着手はもう少し後になりそうですが、どんな建物の実測にいけるのだろうか楽しみにしております。



自分は就職活動中ですが、まだ内定はひとつも取れておりません。野部研究室の研究テーマに合った空調・設備関連の業種を中心に企業を当たっていますが、自分の進むべき道を探すよりも、面接や作文、履歴書などでどのようにして自分を表現するか、ということに就職というものの難しさを感じます。何かよい方法は無いのでしょうか？

就職活動に際して、自分も遅まきながら携帯電話を持つことになったのですが、最近この携帯のカメラで写真を撮ることにハマっています。花や建物やその他街角の目に付いた風景を気の向くままに撮っています。

最後に、指導に当たってくれる野部先生、松島先輩、新川先輩、清水先輩、矢沢先輩、同じ実測班の四方田君、松村君、そして野部研のみなさんに指導や助言をいただきながら Very Good な研究を生み出していきたいと思っています。よろしく願いいたします。



## 酔狂会誌発行に寄せて

野部達夫

書を捨てよ、町へ出よう」とは、早世の劇作家にして歌人であった寺山修司の代表作だが、もし今の世に存命ならば、刺激と情報に翻弄される現代人を送るメッセージは何であるつか、などと取り留めもないことを通勤の地下鉄で考える。書物も所詮バーチャルな世界ではあるが、混沌とした森羅万象を文字の羅列に置換するプロセスは思考を明晰にし、また、背表紙をつけて並べた書物は、デザインや手触りによってインデックスをつけた頭脳の外部メモリとして機能する。もはや書籍も電子化される時代であるが、本来、書物という実体はきわめて人間にふさわしいスケール感を持つものだ。

諸君。本を読むべし。そして、文章を書くべし。日記でもいい。ラブレターならなお結構。人の気持ちを動かす文章を書くつとすれば、自ずと気合いも入るといつもの。小誌もそんなきっかけにでもなれば、嬉しく思う。

## 虜

四方田 誠司

最近、自分は気持ちが不安定でそれを打ち砕くために野球観戦に釘づけです。時間がとれれば実際足を運んで、臨場感や一発でわかるホームランなどで気持ち吹き飛ばしたいと思いますが、なかなか時間がとれなく、テレビやスポーツニュースなどでしか見れないです。

その他には、三国志です。三国志は自分が中学生の時に出会い、それ以来虜になっています。本や小説などを読むと気持ちが落ち着き、何事にもはかどります。

## おまけ

6月25日って何の日??

### 救癩の日

1931(昭和6)年～1963(昭和38)年。らい病(ハンセン病)の予防と患者の救済に深い関心をよせていた大正天皇の後・貞明皇后の誕生日。1964(昭和39)年から「ハンセン病を正しく理解する週間」となった。

### 天神縁日

天神様の縁日(毎月25日)

### 住宅デー

職人の腕と信用を広く世間にアピールしようと全国建設労働組合総連合が1978年(昭和53年)に制定。

### 天覧試合の日

1959(昭和34)年、昭和天皇皇后両陛下が初めてプロ野球の試合を球場でご覧になった日。試合は巨人対阪神戦(後楽園球場)。4対4の同点で迎えた9回裏、巨人の長嶋茂雄が阪神の村山実からサヨナラホームランを打ち、初の天覧試合は巨人軍の勝利で幕を閉じた。

### インテリアの日

(毎月第4土曜日)

### [[諸外国の記念日]]

#### 国祭日

(モザンビーク)

